

## 母子関係における日本、オーストラリア、ネパールの比較

湯舟 貞子、瀧井ヒロミ

近年、マスコミによって子どもに対する虐待などの事件がさかんに報道されるようになった。次代を担う子どもたちには平等に生きる、養育される権利が与えられており、豊かな環境の中で育まれる為に母性意識をどう育てるか、どのような価値観を持っていることが母性意識の発達要因に繋がるのかを知るため、日本人、オーストラリア人、ネパール人の比較をした。その結果、日本人は子どもと接触する時間が一番少なく、しかし、接触時間の少ない事に不安を感じることなく、反面、子どもの成長への満足感も少ないということがわかった。

### 研究方法

1) 対象者は現在7歳以下の子育て中の日本人、オーストラリア人(以下Au)、ネパール人(以下Ne)で、回答者の年齢は何れの国も20~30歳代である。2) 人権の擁護として本研究をするに当たり、Au、Neでは事前に所属大学の倫理審査委員会の承認を得た。対象者には研究の目的、方法、本研究への協力の有無により、今後不利益が生じないことを説明し、協力の同意を得た対象者に質問紙を手渡し、回答は無記名で返送してもらった。3) 分析方法はSPSS11oJを、また主因子法により因子を抽出し分析した。

### 結 果

- 1) 生育過程の中で「小さい弟や妹の世話経験の有無」についてはあると回答した者、日本人は61.3%、Au22.8%であったのに対してNeは60.1%。
- 2) 「妊娠は女性にとって素晴らしい出来事である」は日本人43.8%、Au50.6%であったのに対しNeは16.6%に留まっている。
- 3) しかし、「赤ちゃんを産んではじめて子どもの可愛さがわかる」と回答した者、日本人31.9%、Au21.5%、Neは31.8%と3カ国がほぼ同一線上に並ぶ。
- 4) 「子どもと過ごす時間」は6時間以上と回答した者、日本人40.2%、Au58.2%、Neは87.7%と職業を持たないネパール人は当然ながら子どもとの接触時間は長い。(r=0.65 p<0.000)

### 考 察

過去の調査で、小さい弟や妹の世話経験のある日本の祖母世代では妊娠に対する肯定感情が、その経験の少ない若い世代よりも高かった。しかし、今回の調査でネパール人は世話経験が多いのにも関わらず肯定感情は3カ国の中で一番低い。これはカースト制度のある中で親が決めた相手とのみ結婚できるといった社会環境によるものと考えられる。しかし、出産を体験することによって格差がなくなることから児との対面により、母性意識は高められていくものと言える。

日本人は子どもと接触する時間がオーストラリア人やネパール人と比較して短く、しかし、接触時間の短い事に対する不安も少なく、子どもの成長の満足感も得られていない。これらのことから言えることは、子どもに対し責任を持つという意識を育てる。幼い者を見て「いとoshii」という感情を育てる教育が大切であるといえる。